

フローンアクアエポ

None Dilution
無希釈

Hardness
耐久性

Dust proof
防塵

Safety
安全性

Low smell
低臭

Beauty
美装性

Low VOC
低VOC

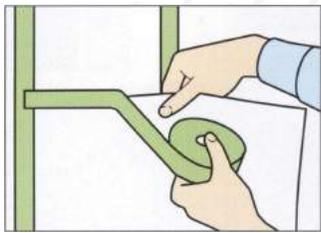
《水性2液型エポキシ床用塗料仕上げ》

下塗り：エコプラ速乾
上塗り：アクアエポ

1 下地素材（コンクリート・モルタル）はよく乾燥させ、コンクリート、モルタル表面に形成されるレイタンスによる脆弱層や、ホコリ、油分など付着物は完全に除去して下さい。
(気温5℃以下湿度85%以上や天候の悪い場合の塗装は避けて下さい)

※新設コンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。

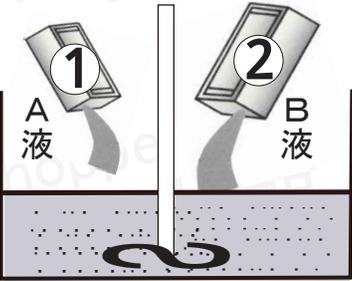
2 塗料が着いては困る所はテープやマスキングで養生して下さい。



3 【下塗り】
エコプラ速乾をA液B液、均一によく混ぜてください。

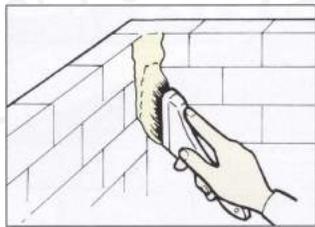


4 A液とB液を1：2の割合で配合し均一になるようによくかき混ぜます。



※配合は重量比で量って下さい

5 スミなど狭い箇所などはあらかじめ目地はけなどで塗装しておきます。



6 ローラーで塗りのばします。
(A液とB液配合後2時間以内に使い切ってください。)

吸込みムラがある箇所は再度プライマーを塗重ねて下さい。



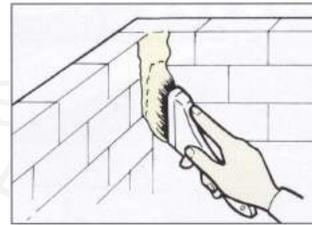
【乾燥】

3時間以上(20℃)乾燥させて下さい。
(48時間以内に上塗りをして下さい。)

8 【上塗り】
アクアエポをA液B液均一によく混ぜてください。



10 スミなど狭い箇所などはあらかじめ目地はけなどで塗装しておきます。

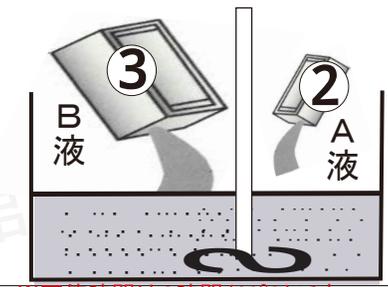


12 4時間以上(23℃)乾かして48時間以内にもう一度塗ります。
(A液とB液配合後1時間以内に使い切ってください。)



9 A液とB液を2：3の割合で配合し、かくはん機でよくかき混ぜます。

※配合は重量比で量って下さい



※可使用時間は2時間(23℃)です。

11 ローラーで塗りのばします。
(A液とB液配合後2時間以内に使い切ってください。)



【完成】

24時間以上(20℃)乾燥させます。
(アクアエポが完全に乾く前に養生を取り除いてください。)

- 気温5℃以下湿度85%以上の場合、また降雨、降雪、強風時および天候不良となる恐れがあるときには塗装を避けてください。
- 溶剤蒸気やスプレーストを吸引しないように、有機ガス用の防毒マスクなど適切な保護具を着用し、皮膚に触れないようにし必要に応じて保護めがね、保護手袋長袖作業着を着用して下さい。
- 直接皮膚に触れないように注意してください。もし触れた場合、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗ってください。眼に入った場合は、多量の水で洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 良くフタをし子供の手の届かない一定の場所を定めて凍結させないよう冷暗所保管して下さい。容器は中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 製品安全データシートをよく読んで取扱ってください。
- 必ず適応の下地処理を行なってから施工して下さい。
- 下地のフレ亀裂、段差、凹凸部などはエポパテやフィラー等にて、平滑になるように処理して下さい。
- コンクリート、モルタル面の表面に形成されるレイタンス(遊離アルカリ)、エプロレッセル(白華)、砂、ホコリ、ゴミ、等は密着不良の原因となる為、ワイヤー付きポリリッシャー等で完全に除去して下さい。
- 新設のコンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。
- 降雨後は、下地が水分を含んでいる為、2日以上十分に乾燥させて下さい。
- 施工時及び施工後の換気を十分に行ってください。
- シーラーと上塗り塗料は絶対に混合しないでください。また、はけ、ローラーなどの共用も避けてください。
- フローンアクアエポは無希釈でして下さい。
- 硬化剤と主剤との配合比を厳守して下さい。攪拌機で充分攪拌して下さい。A液B液配合後は、1時間以内(23℃)に使い切ってください。塗装後は白っぽく、乾燥後ご注文の色となります。
- 床面に貼り付けたラインテープ等を除去する際、塗膜が剥れる可能性があります。
- 太陽光に当たる場所では黄変しますのでご注意ください。(淡彩色は特に短時間でも黄変します。)
- 硬化時間、硬化後の性能は、施工時の温度に大きく影響されます。また、施工時の環境が悪い場合(低温時、高湿度時、換気が充分でない室内)は塗膜に欠陥を発生させる恐れがあります。窓、ドアを開放する、又は送風機等を使用し、十分に換気を良くして下さい。
- 塗装条件、環境などにより、塗膜の本来の耐久性能が十分に発揮されない場合があります。